生活に何かと役立つ連載コラム

つぶやきがんちゃんの

生活知恵袋

せいかつちえぶくろ

Vol. 78

今月のテーマ　デジタル社会と家族間の関わり

「デジタル社会」。何がというより全ての分野においてデジタル化が進んでいる。どちらかというとアナログ的な吾輩も、ここまで来ると後戻りどころか避けては通れないところまで来てしまった。来てしまったなどと表現すると、こいつはデジタルを否定するのかと言われそうだが、そうではない。まあ少しはデジタル化の進歩のスピードについていけていないヒガミ根性が見え隠れすることもあるのだが…。

デジタル化は、私たちの周りにある様々な情報を、より確実により速く届けることが出来るようになった。暮らしの中の道具や機械、電化製品や自動車等々、あらゆる分野で、より便利に、より快適な生活をもたらしてくれている。今も Word に向かって原稿を打ちながら、もしパソコンがなかったら、インターネットが使えなかったら、携帯電話がなかったら、などと考えるとぞっとする。時々やらかすのが保存せずに終了させてしまうということだ。これまでの２時間３時間の仕事はなんだったのだ！と机を蹴とばしたこともあった。便利さの陰には別の形で潜むリスクも存在するのだ。アナログ派にとっては、むしろ不便になったとぼやいたり、かんしゃくをおこしているご同輩もいるようだが。何のことはない。ただ、使いこなせていないだけなのだが…。さてさて、ボヤキはこれ位にして、まじめに考えてみよう。

さて、みなさん。デジタル化は私たちの暮らしに劇的な変化をもたらしてきた。それを意識するとしないに関わらず、あらゆるところに入り込み、今更“アナログだデジタルだ”などと言っていること自体が時代遅れなのかもしれない。しかし、今、当たり前になってしまったが故に、その違いも見えにくくなってしまった。だからこそ、改めて考えなければならないような気がする。皆さんは、どうお感じだろうか…！？

デジタル化がもたらした影響は、物理的・物質的なものだけには留まってはいないということを先ずは知らなければならない。“人間同士の関わり方”自体にも影響を及ぼし、人同士の距離感やコミュニケーションの取り方にも変化を与えてきている。

今回、取り上げたテーマの理由は、家族間の関わり、とりわけ親子の関係、また子供の成長にさえも影響を与えているのではないか、との想いからなのだが、こんな心配をしているのは私だけだろうか。

●そもそもデジタル・アナログとは？

日常生活にしっかりと定着したデジタルとアナログ。今更ながら人に聞けないご同輩のためにも改めて考えてみよう。（ここだけの話だが、実は自分でもよく分かっていない）

デジタルとは、機械で情報を扱う際の表現方法の一つで、情報をすべて離散的な数値（整数など）の集合として表現し、明確に区別できる段階的な物理量に対応させて記憶・伝送する方式のこと。

「デジタル」＝離散したもの、数値化（量子化）されたもの…。

アナログとは、機械で情報を扱う際の表現方法の一つで、情報を電圧の変化など連続的な物理量の変化に対応付けて表現し、保存・伝送する方式のこと。

「アナログ」＝連続したもの、数値化（量子化）されていないもの…。

ハイ以上、皆さんよく分かったでしょう。メデタシ、メデタシ！てな訳にはいかないよなあ…。むしろ、もっと分からなくなってしまったという方もいるに違いない。私自身も様々な解説を調べていけばいくほど、その理解の仕方がややこしくなってくる。理屈は抜きにして、具体的な例で考えてみよう。

誰もが知っている身近なもので言うと、デジカメやデジタル時計がある。これまでのカメラはフイルムに直接画像が映し出され、そのフイルムを見ながらプリントしていたが、デジカメにはフイルムがなくデータとして記録される。時計はとい

齋藤廣勝（さいとう　ひろかつ）
株式会社トータルライフサポート代表取締役
・CFP®サーティファイドファイナンシャルプランナー
・1級ファイナンシャルプランニング技能士
・日本商工会議所　年金・退職金等認定講師
・住宅ローンアドバイザー
・金融広報アドバイザー

こちら

保険と暮らしの相談センター

“生命保険でこんなお悩みはございませんか!?”

◆ 保険の見直しを検討している
◆ 加入している保険が本当に良いのかわからない
◆ 更新時期が近く、保険料がアップしてしまう
◆ 将来の子供の教育費が心配

相談は無料!!
納得いくまで相談できます。

お気軽にご相談ください。

total life support　募集代理店　株式会社 トータルライフサポート

〒010-0916　秋田市泉北3丁目17-22
● 営業時間／9:30～19:00
● 定　休　日／水曜日
TEL 018-827-7611
FAX 018-827-7610
URL http://tls-akita.co.jp

詳細はホームページでもご覧いただけます。

うと、アナログは短針と長針で時間を読み取るが、先の解説に当てはめると「数値化されていないもの」とされる。俺のアナログ時計には数字が書いてあると言われる方もいると思うが、全ての時間が書かれているわけではないので意味合いは違う。一方、デジタルはというと、針ではなく時間そのものが表示される。これも解説に当てはめると「離散（バラバラに存在）したもの、数値化（量子化）されたもの」ということになる。

●そもそもデジタル・アナログとは？

今回のテーマは家族関係やコミュニケーションを考えることであり、物理を学ぶわけではないので面倒くさいことはこれ位にして表現を変えてみよう。

例えばお腹が空いて〝お昼はまだかなあ？〟と思っている人がデジタルさんに時間を尋ねた。デジタルさんは時間表示を確認し〝12:59〟だよと回答する。一方アナログさんは長針と短針が重なろうとしているのを見て〝もうすぐお昼だよ〟と回答する。

お花見が始まるのを心待ちにしている人が〝お花見が始まるのはいつから？〟と尋ねた。デジタルさんは〝4月21日からだよ〟と答えた。一方アナログさんは〝来週の土曜日からだよ〟と答えた。情報の正確さという点ではデジタル情報に軍配が上がるかも知れないが、どっちが正しいとかどっちが正確かとかの問題ではない。今、求められている情報に対して、どちらが優しいかだ。

●デジ子とアナ男の物語

むかしむかし、あるところに妻のデジ子さんと夫のアナ男さんが住んでいました。アナ男さんが仕事から疲れて帰ってきたのを見て、愛妻のデジ子さんは優しく迎えてくれました。

「あなた、お疲れでしょう。先にお風呂に入ったらどうです？」

アナ男は、そうしたいが少し仕事を片付けたいので「それが終わったら入るよ。」「じゃあ何時くらいになります？」「すぐ終わるよ。」「すぐって何分ですか？」アナ男は憮然として「少しだ…！」

そして、食事の最中のこと、アナ男は、「今日のご飯は少し多めにしてくれないか。」デジ子は、「ハイ、たくさん食べてね」と差し出す。「オイ、これじゃあ少しではなく大盛りじゃないか。」これにムッとしたデジ子は、「じゃあこれからは何グラムか指定してください…。」

度々のすれ違いに、お互いへの思いやりや気遣いが足りないことを反省し、それぞれの良い点を確認し、末永く仲良く暮らしましたとさ…。

めでたしめでたし。

●デジタルの視点とアナログの視点

テストなどで利用される回答方式にマークシート方式がある。これは該当番号をマークしたり、Yes・Noのどちらかをマークするというものだが、いずれにしてもこの判定方法は、○か×か白か黒かのように中間はない。まさにデジタル方式だ。

採点する側にとっては合否の判定スピードを飛躍的に早くした。一方、回答する側にとっては、回答の確認をする際には慎重にならざるを得ない。問題の番号と回答する番号がずれたりすると、とんでもない結果を招くことにもなる。

聞いたことがある方もいると思うが、小学校の理科の試験で、「氷が解けると何になりますか？」という問題に対し、ある子供は、「氷が解けると春になる」と解答した。もちろん間違いではあるが、先生は×を付けなかったそうだ。マークシートの採点やデジタルの発想ではありえないことだ。何かホッとした気分になるのは私だけだろうか…。

●それぞれを尊重

今話題のマンションを巡る問題！安全に建築するための杭の長さは、見えない地下であるだけに、数値化された正確なデジタルの情報が不可欠だ。皮肉なことだが、データであるが故に他のデータ流用なども起きてしまう。

一方、内装や間取りなどの設計では、デジタル化できない人間それぞれの趣味や感性が尊重されなければならない。それまでの常識や経験などのデータは、新しい発想の採用や心配りの行き届いたものを生み出す際に、むしろ邪魔をすることさえあるからだ。

また、私たちの健康や体の状態を判断するためのデジタルデータは、今後の健康維持のためにも重要な資料となる。しかしながら、人によっては健康診断自体が目的化してしまって、再検診や経過観察の指摘が、その後の受診や健康管理や生活習慣の改善に活かされていないケースも多く見受けられる。データを基にし、問診での症状や生活習慣を確認するアナログ診断は、原因究明やその後の治療方針を決めるためには不可欠なのだ。

デジタルの情報は判断材料としては実に意味深いし、なくてはならない存在となっている。そういう意味では、データ自体に価値があるというより、そのデータをいかに活用するかが価値を高めることになるのだ。無駄にしてしまわないためにも、それぞれの特性と利点を尊重したいものである。

●デジタルとアナログの融合

色々ゴタクを並べてきたが、デジタル化の無造作な活用は、家族間の関わりや、コミュニケーションに血の通わない無機質なものになってしまいかねない。感情というアナログ的な情報を伝えにくい、携帯・スマホ・メール・ツイッター・フェイスブックだけでの情報交流は、情報自体が独り歩きし、本人の思う思わざるに拘わらず、時として誤解を招いたり、それ自体に支配されてしまう危険性をもはらんでいる。

しかし、デジタル機器やデジタル情報なしでは成り立たないところまで来ている。であれば、正しいデジタル機器の活用と情報の管理・コントロールが欠かせない。それはアナログ的な感性と判断に裏打ちされていなければならないし、両者の併用と融合があってこそ、物質的な豊かさと心の豊かさを実現されるキーワードであることを信じて疑わない。

来月号は…

今月、親子間の問題も考える予定だったが、ついつい脱線し辿り着けなかった。引き続きデジタル社会を前提に、子育ての現場における問題に目を向け、アナログ的な関わりをも見つめ直してみよう。